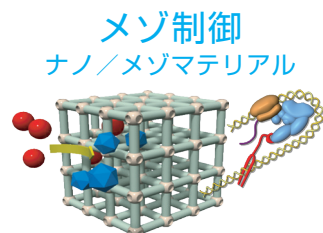


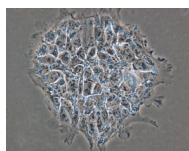
ミッション

- 物質－細胞統合科学という
新たな学際領域を創出する
- 科学者のキャリア形成における
国際的ハブとなる

2つの基本概念



幹細胞
細胞生物学



運営

迅速な意思決定

- 拠点長によるトップダウン型マネジメント

英語が公用語

- セミナーやシンポジウム等の行事も全て英語
- 英語に堪能な事務職員が4割以上

研究グループ間の交流促進

- 共有研究室やオープンオフィスなどの施設環境

研究者へのインセンティブ

- 公正な評価に基づく成果主義の給与システムを導入

研究者の国際公募

- 全ての研究ポストを国際公募
- 2年間のスタートアップ資金
- iCeMS 京都フェロー (スーパーポスドク / 独立助教)
- 優秀な若手研究者を各国から採用

外国人・女性研究者への支援

- ビザ取得手続支援
- 住居関連支援
- 出産休暇中の代替要員の確保
- 子育て支援
- 女性研究者サポートセンターの活用

科学者のインテグリティと社会的責任

- 科学者の社会リテラシー
- 科学コミュニケーション / インテグリティ
- 若手科学者のメンタリング向上

研究領域と目標

新たなメゾ科学と
技術イノベーションの創出

1. 幹細胞システムのメゾ制御

2. 機能性構造体のメゾ制御



設立 | 学際融合研究とキャリア形成における国際的ハブ

アイセムスは文部科学省の「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI プログラム)」に採択され、2007年10月1日、京都大学に設立されました。

「物質－細胞統合科学という新たな学際領域を創出する」と、「科学者のキャリア形成における国際的ハブとなる」事を目指します。



組織 | 国際的な知名度の向上

アイセムスは18名の主任研究者を含む139名の研究者、59名の研究支援員及び26名の事務職員で構成 (2009年12月17日現在) されており、**中辻 憲夫** 教授 (前京都大学再生医学研究所 所長) が拠点長を務めています。アイセムスは以下の連携機関と協力して世界的に研究活動を展開しています。

- マックスプランク分子細胞生物学・発生学研究所 (ドレスデン)
- ケンブリッジ大学 ウェルカム・トラスト幹細胞研究センター
- 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター (理研 CDB)
- インド国立生命科学研究センター (バンガロール)
- UCLA カリフォルニア・ナノシステム研究所
- オックスフォード大学 バイオナノテクノロジー学際研究センター
- パーデュー大学 膜センター

また、岐阜大学の **木曾 真** 教授グループがサテライト機関として参加しています。



研究 | 人類福祉のための新世代技術

アイセムスでの研究は、「メゾ制御 (Meso-control)」と「幹細胞 (Stem Cell)」の2つをキーワードとして組み立てられています。

これらに基づき、1) 幹細胞システムのメゾ制御、2) 機能性構造体のメゾ制御などの物質科学と細胞科学を統合した学際領域を創出します。

さらにこれらを活用した、A) メゾ制御による環境にやさしい化学、B) 体内での解毒と薬物合成、C) 幹細胞のスマート物質制御による再生医学の3分野で人類福祉に貢献する新世代技術の開発を目指します。

業績 | iPS細胞の作製に成功 - CiRA 設立

アイセムス主任研究者である **山中 伸弥** 教授が、2007年11月、ヒトの皮膚細胞から人工多能性幹細胞 (iPS細胞) の作製に成功した事を発表しました。

iPS細胞研究を強力に推進するため、わずか2ヶ月後の2008年1月にアイセムスの附属施設として iPS細胞研究センター (CiRA=サイラ) が設置され、**中辻** 拠点長が **山中** 教授をセンター長に任命しました。